

C02130-040-030
[Z06090 T65-3]

“京大生物科学懇談会”結成の呼びかけ

現在の生物学の進展はまことにめざましいものがあり、生物学内外の諸分野の間の交流が必須となつて来ていることは、一般に認識されている通りです。京都大学ではさいわい生物学の種々の分野で優れた研究が進められており、将来の発展性も豊かであると思われませんが、しかし残念なことに、種々の学部・研究所に分布している研究者の間の連絡は現在にはなほだ乏しいといわなければなりません。違つた分野の研究者間の連絡・交流をよくすることにより、各人の当面している問題の解決や、さらには研究の質的向上・発展、教育の充実などの効果が期待できることはおそらく自明でありましょう。

京大内でのこのような交流をはかる場合に、その基礎として、種々の分野の研究者が接触して相互に理解し合うとともに、生物学についての各自の展望を深めることがまず必要であろうということが、諸学部・研究所の有志の話合いで了解されました。それに基づいて、本年1月16日基礎物理研で第1回の「生物科学セミナー」が行なわれたわけです。このセミナーについては、周知の方法等に問題があつたようですが、多数の聴衆を集め、興味深い討論もあつて、有意義であつたように思われます。そこで第2回のセミナーを4月24日(土)に開くこととし、講師として湯川秀樹(基研)、岡本道雄(医・解剖)、内田俊郎(農・農林生物)各教授を予定しています。今後も定期的に行ないたいと考えています。

しかしいまでもなく、このようなセミナーの開催に止まらず、京大内における研究の発展・教育の充実をはかるために、諸研究者が協力すれば可能になる方策が種々あるのではないのでしょうか。そのような具体的・現実的な方策を考え、可能な所から実行に移してゆくことは、現代の生物科学者に課せられた

任務というべきでしょう。

一方京大ということを超えて、全国的な規模で生物諸科学の研究・教育体制を検討する動きがいくつかあります。学会の将来計画もそれであり、また有志の集りとして「生物科学総合研究体制を考える会」なるものが発足して学会に働きかけたりしています。このような動きはなかなか一般には伝わらず、また一般の意見がこれら全国的な機関に反映されるのも、現実には容易でないようです。そこで、これら全国的な動きに対処しうるような、あるいは少なくともそのような情報を学内一般に流すような機関が京大にあることが望ましいと思われまます。

以上のように、京大内外の問題を生物科学諸分野の研究者の協議で考えてゆくことができるような機関を作りたいと考え、“京大生物科学懇談会”の結成を提案します。さし当つての仕事は、前記のセミナーを開催してゆくことですが、それ以上何をやるべきか、あるいはこのような会そのものを持つべきか否か、多くの方々の御意見を伺いたいと思います。4月24日のセミナーのあとで、4時ごろからそれを討論する会を開く予定ですので、積極的に御参加下さることを切望します。

1965年4月2日

世話人 川出由己(ウイルス研)

福留秀雄(基研)

■ ■ 呼 び か け ■ ■

生物科学が現在大きな転機に際会していることは人々の一致して認めるところである。思うにそれは、この科学が諸科学との活潑な交流を背景として、方法的に一つの画期的な進展をとげ、生命現象の素要因、素過程のたちいった解析にめざましい成功をおさめたことに主として基づく、といつて大きな誤りがないだろう。それはわれわれに、基礎であれ応用であれ生物科学に関連する諸分野を通じた視野の中で、相互の関連と力点の所在を明らかにすると同時に新たに開拓すべき諸問題についての豊かな展望を与えつつある。

こうした事態に直面して、既往の一切のコンヴェンションにならずに、正しく主体的に即応するために、われわれは、日本における生物科学の研究および教育の体制がいかなるものでなければならぬかを真剣に考え、共同の場において討議し、さらに研究者の立場を堅持しつつその実現に努力するために一つの話合の場をつくった。狭い意味での専門を問わず、この趣旨に賛同される方の参加を切望する。

昭和40年2月 生物科学総合研究体制を考える会

有馬 啓 (東大 農)	水島 昭二 (東大 応微研)
江上 不二夫 (東大 理)	南雲 仁一 (東大 工)
深井 孝之助 (阪大 微研)	直良 博人 (ガンセンター研)
福井 作蔵 (東大 応微研)	野島 徳吉 (東大 伝研)
福留 秀雄 (京大 基研)	岡本 尚 (名大 理生)
藤 茂 宏 (岡大理生物)	岡崎 令司 (名大 理化)
本城市次郎 (阪大 理)	大沢 文夫 (名大 理分子)
堀内 忠郎 (予 研)	大沢 省三 (広大 原医研)
飯野 徹雄 (遺伝研)	小関 治男 (予 研)
亀山 忠典 (金大 医)	斉藤 日向 (東大 応微研)
加藤 淑裕 (名大 理)	佐藤 七郎 (東大 理)
川喜田 愛郎 (千葉大 医)	正田 陽一 (東大 農)
木原 弘二 (慶大 医)	柴谷 篤弘 (広大 原医研)
吉川 秀男 (阪大 医)	田宮 信雄 (医科歯科大硬研)
近藤 洋一 (群大内分泌研)	時実 利彦 (東大 脳研)
熊沢 喜久雄 (東大 農)	富沢 純一 (予 研)
前川 文夫 (東大 理植)	次田 皓 (阪大 医)
丸尾 文治 (東大 応微研)	瓜谷 郁三 (名大 農)
水上 茂樹 (東大 医)	内田 久雄 (東大 伝研)
三井 宏美 (ガンセンター研)	植村 定次郎 (東大 応微研)
三宅 端 (慶大 医)	渡辺 格 (慶大 医)
水野 伝一 (東大 薬)	山本 正 (東大 伝研)

< „考える会” の経過 >

昭和39年9月15日 生物科学関連分野の有志約30名が参加し、慶応大学において、わが国の生物科学の今後の発展に必要な諸方策について討議した。その結果、生物科学関連分野を包括する共同の討議の場を設け、話し合いを継続してゆくことの必要性を確認され、この有志の会を“生物科学総合研究体制を考える会”として発展させること、および学術会議に対し生物科学将来計画に関するシンポジウムの開催を要請すること

に決った。

昭和39年10月、学術会議に対し、全国各地の生物科学研究者300余名の署名を添えてシンポジウムの開催を正式に要請した。

同12月、学術会議は生物科学研究連絡委員会拡大委員会を開き、生物科学将来計画小委員会を設置して生物科学諸領域の長期計画の調整をはかるとともに、さきの生物科学者の要請にもとづいてシンポジウムの開催を決定した。

昭和40年2月5日、“考える会”の第1回総会を東京において開催、現代生物科学の構造をより明確にし、それに対応した研究体制を作り上げてゆくための諸活動について討議し、各地に作業グループを設置し、恒

常的活動を開始するとともに、“考える会”をより広い基盤に置くため“会”の方針を公示し、全国の研究者が会に参加されんことをよびかけることを決めた。

昭和40年2月8日、学術会議長期研究計画委員会主催の生物科学長期研究計画に関するシンポジウムが開かれた。このシンポジウムの結論にもとづいて、生物科学将来計画小委員会の中に、生物科学研究教育総合化のための方法を検討する作業グループを置くことが決定され、“考える会”に対しても作業グループに協力することが要請された。このため暫定的に在京3名の会員がグループに加わってこの作業を援助することになった。

・ 入会ご希望の方は会運営費1000円を添えて下記へお申し込み下さい。

東京都港区白金台町 / 東京大学伝染病研究所内

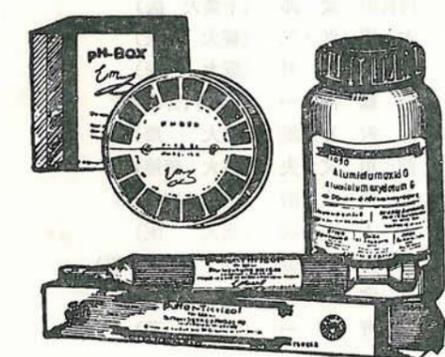
「生物科学総合研究体制を考える会」事務局



この商標は 世界を通じて 常に最純の品質と認められ
日本に於ても試験室 薬局 研究室等から多大の御注文
を受け続けております。

1. 最純保証附試薬
2. 核研究用試薬
3. 規定液及緩衝液
4. 指示薬
5. 顕微鏡用試薬
6. クロマトグラフ用試薬
7. ガス分析用試薬
8. 電子並びに光学用高純度試薬

その他一般研究用試薬



米山薬品工業株式会社
大阪市東区道修町二丁目三番地 電話 大阪 231局代表3555～8番
東京都千代田区神田鍛冶町二丁目四番地 電話 東京 252局 4 5 7 1～3番